

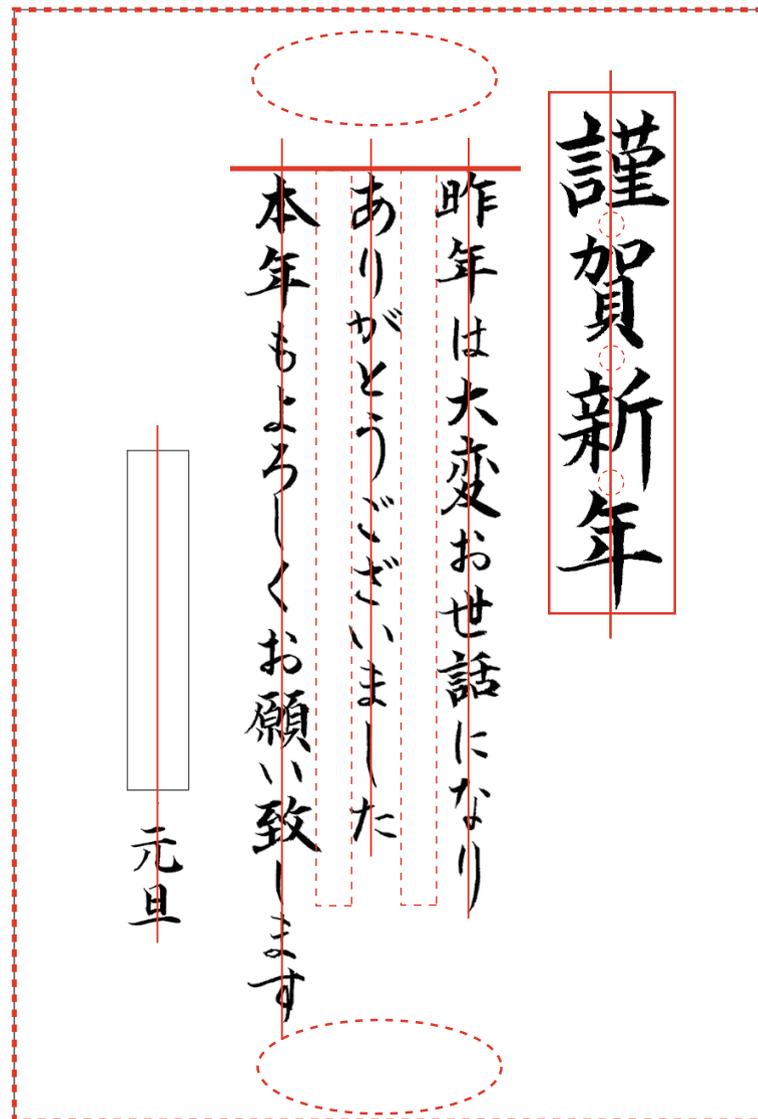
<その他の筆文字基本ルール>

- ・句読点は付けない
- ・段落を1字下げない
- ・漢字は大きく、ひらがなは控えめに

<一言を添えるときの考え方>

一言を添える場合、本来は本文の後・元旦の前に入れると文章の流れとして自然です。

しかし、このお手本ではすでに配置が完成しているため、初心者の方は元旦の後ろに硬筆で小さく添えることをおすすめします。書き慣れている方は、行の高さや余白を調整しながら、元旦の前に一言を加えてみてください。



*文字そのものよりも「レイアウト」が整うことで、全体の印象が大きく変わります。
(書の世界では、これを布置(ふち)といいます)
文字を上達させる前に、まず文字を“どこに置るか”を決めると、仕上がりが驚くほど安定します。

年賀状の布置・7つの要素

書く前に、まずここを整えてみてください。

1、上下の余白

本文の上下に同じぐらいのスペースを残す。
(上の方がやや広い方が良い)

2、左右の余白

本文全体が左右どちらにも寄りすぎず、紙面の中心に重心がくるように整える。

3、行の通り(縦のライン)

それぞれの行の中心が、まっすぐ一本の線の上に乗っているか。

4、行頭の高さ

各行の「書き始め」が、そろった高さから始まっているか。

5、行間のリズム

行と行の間隔が、途中でつまったり広がったりしていないか。

6、字間のバランス

同じ行の中で、文字と文字の間が詰まりすぎたり、空きすぎたりしていないか。

7、全体の重心

見出し(謹賀新年←一番大きく書く)、本文、元旦(元旦の上□には、通常年号や西暦を入れる)が紙全体の中で、バランスがとれているか。